

学校行事等を通して児童生徒の「互いを尊重する心」を育む

ねがい

〈目的〉

児童生徒が互いに尊重し、助け合う気持ちを育てるために地域と幼児学園、小・中学校が一体となって学校行事やあいさつ運動に取り組むことにしました。

〈内容〉

つながり

● 幼小中合同運動会の企画運営

直島では小学校児童会と中学校生徒会が協議して町民合同で開催する運動会のテーマを決定します。小学生と中学生代表の意見を大切に uptake、テーマに盛り込むことで小・中学生が互いに支え合っている行事であるという意識を高めるとともに、自分たちが主体的に行う運動会であるという自覚を深めました。また、運動会当日は園児や小学生が行う競技の準備や審判を中学生が行ったり、中学生の演技を小学生が観たりすることによって一体感が生まれました。

● 小・中学生の気持ちでつなぐあいさつ運動

小・中学生がともに月ごとに期間を決めてあいさつ運動を行っています。そのときに小学生が缶バッジを制服につけて地域の方にあいさつをしていたのを、中学校でも取り入れることに決め、今年は缶バッジの贈呈式を行いました。小学生が考えた標語と、直島小・中学校のスクールキャラクターである「アゼリアちゃん」が描かれた缶バッジが小学校と中学校をつなぐ架け橋となり、児童生徒のあいさつ運動への意欲向上につながりました。



● 小・中学生合同で行う英語の授業

小学6年生が外国へ向けて手紙を送るために、自己紹介を中学3年生に聞いてもらい、その質を高める授業を行いました。まだまだ英語をうまく話せない6年生が一生懸命に自分の知っている英単語を用いて自己紹介文を作ります。中学生がその文章を原稿に起こし、より詳しい自己紹介ができるようにアドバイスをしました。はじめはお互いに緊張していましたが、6年生は中学生に支えられることで安心し、中学生は先輩としての自覚を持つことができました。



〈成果〉

児童生徒は校種が違ってもお互いに支え合い、協力し合ってひとつのことに取り組むことの大切さが理解できたと思います。また、自分を支えてくれる仲間や先輩、地域の人がいることを知り、より「ふるさと直島」を好きになり、ゴミ拾いなどボランティア活動に参加する児童生徒も増えました。今後は学力向上のために教員間の連携や情報交換を密にしていきたいと考えています。

高まり